

2015.10.09：平成26年度決算等審査特別委員会（第4日目） 本文

○菅原正和委員 地下鉄東西線のカウントダウンボードにはあと58日と刻まれています。日は東から上り西に沈むというように、1日の始まりは東から始まります。仙台市東部地区にとっては大きな可能性を秘めた新しい動線が引かれようとしています。若林区内には五つの駅ができ、コンパクトシティーに向けた住環境の整備、東西線を活用した地域づくり、新たな観光スポットづくりなど、まちづくりに大きな期待を抱かせます。そこで、地下鉄東西線フル活用プラン推進に要する経費の中で展開されているWEプロジェクト、市民応援団、この2点についてお尋ねいたします。

地下鉄東西線のプロモーションであるWEプロジェクト、これが決まったいきさつを含めて、概要をお知らせください。

○市民プロジェクト推進担当部長 WEプロジェクトは、東西線開業に向けた新たな市民参加型のプロモーションといたしまして、平成25年度に取りまとめたものでございます。その全体像につきましては、平成26年3月に市民向けのプレゼンテーションで発表し、この事業を推進していくため、平成26年6月にWEプロジェクト実行委員会を組織し、具体的な取り組みを展開しているところでございます。

○菅原正和委員 今、お答えをいただいた中に、平成26年度に実行委員会を立ち上げ、具体の取り組みを行ってきたとありますが、実行委員会の予算規模はどのぐらいだったのでしょうか。交通局、市民局から実行委員会に予算が流れていると聞きました。具体的な数字を教えてくださいませんか。

○市民プロジェクト推進担当部長 平成26年度におけます市民局の負担金は7700万円余、交通局の負担金は5000万円余でございます。実行委員会の全体予算はこれに企業からの協賛金等を加えました1億4000万円余でございます。

○菅原正和委員 このWEプロジェクトとは、東西線開業期にこれからの仙台をつくる超市民参加型プロジェクト、超がつくぐらいやっぱりすごいですね、とありますが、このプロジェクトに市民がどうかかわってきて、どのような事業を展開してきたのでしょうか。教えてください。

○市民プロジェクト推進担当部長 平成26年度の事業では、市民の皆様にかかわっていただく取り組みといたしまして、仙台のまちづくりを担うことができる人材を育成するWE SCHOOLや、その卒業生による新たなプロジェクトの立ち上げとその推進、市民の皆様がアイデアを出し合い、その実現を推進していくための仕掛けとしてのWE STUDIO、新しい情報発信ツールとしてのWE TUBEの政策を実施してまいりました。そのほか、開業機運を盛り上げていくための取り組みといたしまして、市民ミーティングを開催するなど、市民の皆様との接点をさまざまな形で設けてきたところでございます。

なお、平成27年度におきましては、若者を中心に参画していただくための取り組みとして、CMコンテスト、昨日発表させていただきましたが、実施しましたほか、11月22日に市民参加の開業イベントの開催を予定しているところでございます。

○菅原正和委員 仙台のまちづくりを担うことができる人材育成を行うWE SCHOOLについて、もう少しお聞きします。事業の目的や内容について教えてください。また、講座の定員と実際の応募状況はどのぐらいありましたか。

○市民プロジェクト推進担当部長 開業に向けまして、地域の魅力の掘り起こしや情報発信を行うことができる人材育成を行い、その方々に沿線に魅力向上等を図っていただくことにより、さらなる沿線の魅力や機運の醸成を図ることを目的といたしまして、市民プロデューサー養成講座と市民メディア隊養成講座を実施したところでございます。

定員と応募状況についてでございますけれども、両講座とも定員を30名としたところ、市民プロデューサー養成講座には58名、市民メディア隊養成講座には34名の応募がございました。

○菅原正和委員 詳しく教えていただきまして、まことにありがとうございます。定員がそれぞれ30名なのに、それを上回る応募が来たのはなぜだと思いますか。

○市民プロジェクト推進担当部長 指導に当たります講師陣の顔ぶれでありますとか、実践的スキルを身につけることができるという講座の内容に魅力を感じられたということが、このような応募につながったものと考えております。

○菅原正和委員 今まで私が体験してきた市関連の講座で、定員を上回る応募があったということは、私は余り聞いたことがありません。さらに受講者は有料で参加しております。今後の企画をする際も、この事業は一つのモデルになるような気がいたします。特に20代、30代の方が7割以上を占めた参加者、若い世代にとっても魅力ある企画であれば、有料でも参加の選択をするということが実証されたような気がいたします。これからの仙台のまちづくりには、若い世代が欠かせないと思います。市民局の方々も今後魅力のある企画をつくり続けていただければと思います。

では、講座実施後、スクール参加者へのアンケートを実施したと思いますが、参加者の思いと当局の実施目的と一致した点、相違した点は何だったのでしょうか。

○市民プロジェクト推進担当部長 講座終了後のアンケートでは、受講生の中にはもっと教えてもらえる、具体のスキルを伝授してもらえると欲していた方も多く、ディスカッション中心の内容に戸惑ったという御意見をいただいているところでございます。そのような御意見をいただいておりますけれども、大方の受講生が最後まで参加され、複数のプロジェクトが立ち上がったという成果があったことにつきましては、おおむね実施目的が達成できたものと考え

ておりまして、この点は参加者の思いと私どもの思いが一致した点と認識しているところがございます。

○菅原正和委員 講座を進める上で担当部署の狙いはあったと思います。受講者は次のステップへ進んでいく人、当初の思いと違っていた人、いろいろな方がいたと思います。有料で実施したWE SCHOOL、次のステップに進めた人はよかったですけれども、当初の思いと違い、次に進めなかった人にも何らかの配慮が必要だったのではないのでしょうか。せっかく集まっていた若い世代、もう少し教える部分も必要だったのではないのでしょうか。でも、このスクールを実施したことで、地下鉄東西線をもっと盛り上げていきたいと考えている方がふえたことは喜ばしいことだし、今後も支援を続けていくことで、市民の参加度、満足度がアップすると思います。

そこで、スクール卒業生を対象としたプロジェクトを、今後も進めていきたいと思う人を対象にアフタースクールを実施しているのですけれども、その狙いと効果、また何名が参加しているのか。さらに、現在スクール制によるプロジェクトはどれだけあるのか。また、それは開業イベントに向けて進められているものなのか、開業後も続けられるものなのか教えてください。

○市民プロジェクト推進担当部長 まず、アフタースクールでございますけれども、それぞれのプロジェクトにつきまして、進捗状況などの発表をチームごとに行いまして、その内容について講師陣から具体的な助言を行う場として月1回実施しておりまして、参加者でございますが、開催日により増減はありますけれども、およそ30名程度出席している状況でございます。このような活動を通じまして、参加者同士が刺激し合いながら、各プロジェクトが進捗しているというところでございます。今後もこうした取り組みを続けてまいりたいと考えております。

次に、スクール卒業生のプロジェクトでございますけれども、現在12のプロジェクトが進められておりまして、中には活動の中で地元百貨店と連携し、店内において東西線沿線の魅力を発信するポスター掲出を行うなど、既に発表され、活動の成果が出ているプロジェクトもございます。開業イベントでは現時点で三つのプロジェクトの発表を予定しております。これらのプロジェクトは沿線の魅力発信が大きな目的でございますことから、今後も継続されていくものと伺っているところでございます。

○菅原正和委員 一つの区切りとして、地下鉄開業があるかと思えます。そして、年度末を迎えます。次年度は、スクールにかかわってきたプロデューサー、少し有名な、かなり有名な方が来ていまして、これに魅力があつて皆が集まったと思いますけれども、このかわりはどうなるのでしょうか。お聞きします。

○市民プロジェクト推進担当部長 プロデューサーの皆様方からは、これからも引き続き応援したいというお話をいただいておりますことから、私どもといたしましても、それに応えるためにもかかわりを継続していけるよう、さまざま努力してまいりたいと考えております。

○菅原正和委員 かなり著名な方ということで、続けるに当たっては、予算もかかるかと思うのですが、その辺どうでしょうか。

○市民プロジェクト推進担当部長 現在、来年度の予算要求に向けまして、まず担当のほうで整理をしておりますけれども、昨年度実施しましたスクールの反省も踏まえまして、どのような構成で、どのような内容で実施していくかということも含めて、現在検討しているところでございます。

○菅原正和委員 私は、この講座を受けた受講生が今後レベルアップをして、講師になっていくとお聞きしました。私としては、仙台から逆に東京に発信できる人材づくりに邁進していただきたいと思っていますので、御当局、努力をよろしくお願い申し上げます。

次に、東西線まちづくり市民応援部についてお聞きします。まず、結成の趣旨と現在の部員数についてお伺いします。

○市民プロジェクト推進担当部長 東西線まちづくり市民応援部は市民の立場から応援したいという呼びかけに応じまして、地下鉄東西線を盛り上げたい、沿線地域をもっともおもしろくしたいという思いを持つ個人、団体が集まり結成されたものでございます。部員数でございますけれども、本年9月末現在で1,407人でございます。

○菅原正和委員 地下鉄を応援してくれる人をふやすことは、地下鉄に愛着を持っていただけると同時に、乗車行動につながるかと思いますが、1,407名の部員の数は、当局はどう思っておりますか。

○市民プロジェクト推進担当部長 1,407名の皆様に市民応援部に入部いただいていることは、とてもありがたいと考えております。今後、開業機運をさらに盛り上げ、地下鉄ファンをふやし、利用者増へとつなげていくためにも、引き続きさまざまな機会を捉えまして、入部の声かけなど部員をふやしていく努力が必要であると考えているところでございます。

○菅原正和委員 それでは、この地下鉄応援団の居住地についてお聞きします。

地下鉄東西線ということで、仙台駅を起点として分けた場合、東エリアの宮城野区、若林区と西エリアの青葉区、太白区の割合はどの程度でしょうか。

○市民プロジェクト推進担当部長 部員全体に占めます宮城野区、若林区の割合は全体の約25%、青葉区、太白区の割合は全体の約56%でございます。なお、泉区は約8%、それから市外、県外、約11%という状況でございます。

○菅原正和委員 市民応援部は事務局で部員が展開する事業に対して、審査の上、総事業費の一部、上限50万円の支援金を交付しております。平成26年度の交付件数は何件だったのか。また、先ほどお聞きした東エリアと西エリアという捉え方をすると、その割合についても教えてください。

○市民プロジェクト推進担当部長 平成26年度の支援金交付件数は全体で13件ございまして、宮城野区、若林区で実施された件数は3件、全体の23%、青葉区、太白区で実施された件数は7件、全体の54%でございます。そのほか、沿線全体を対象としたものなどが3件ございました。

○菅原正和委員 今までの結果を分析すると、部員数にしても、支援金を交付した事業についても、西の割合が高いと思います。私には東エリアに対するPRが足りないのではないかと映ってしまいます。さらに、市民の皆様目のにも、東部地区に余り目が行っていないのではないかと感じます。

今回の地下鉄東西線は、五つの駅を抱える若林区にとって、とってとても大きな事業、各駅には地域の歴史や見どころがたくさんあります。余り目が行かなかったということは、魅力を発信する力が弱かったような気がいたします。地下鉄に乗車させることだけを考えるのではなく、各駅においてみたくなる仕掛けづくりが必要となる仕掛けづくりが必要になってくると思います。そのためには、東エリアの応援部員をふやしたり、地域を特定し満遍なくPRを行っていく支援事業の展開をしていくことも必要だと考えます。東エリアにもっと光を当てるべきと考えますが、今後どのように対応していくのかお聞きしたいと思います。

○市民局長 開業イベント、あるいは市民応援部の取り組み、開業で終わるものではございません。むしろここからが本番であると認識しているところでございます。東の起点であります荒井駅周辺では、新たなまちづくりも進んでおります。仙台の復興と未来への飛躍のシンボルにもなる地域でございます。東西線沿線のまちづくりは、全庁一丸となって取り組むべき本市の最重要プロジェクトであります。お話の東部地区の市民応援部の部員をふやす努力も続けながら、今後とも地域の皆様とともににぎわいと活気あふれるまちづくりに取り組んでまいり所存でございます。

○菅原正和委員 今部員をふやすとか、東に力を入れていただけるというお答えをいただきました。私にとっては、そういうお答えをいただくことが非常にありがたいと思います。どうもありがとうございました。これで私の質問を終わります。